

# 石巻で復興支援活動 29歳の足跡

## 18年に死去の小田さん

### 愛教大で写真・記録展

愛知教育大(刈谷市)在学中から東日本大震災で被災した宮城県石巻市を中心



小田太郎さん

に復興支援ボランティアに汗を流し、二〇一八年に二十九歳で亡くなった小田太郎さん。蒲郡市竹谷町出身の残した写真や活動記録の展示が、愛教大付属図書館で二十六日まで開かれている。学生以外にも観覧でき



る。土、日曜と十七日は休館。

小田さんは一一年四月下旬から石巻市に入り、主にボランティアの調整役を担った。同年七月以降は大学の部活仲間やゼミの後輩らを誘い、数日間のボランティアツアーを幾度も企画した。翌二二年に蒲郡市中央小学校の教員になつてからも被災地を訪れ、防災教育のあり方を考え続けた。

太郎さんが撮影した、倒壊した建物の写真を説明する孝さん＝刈谷市の愛知教育大付属図書館で



一七年三月、希少がんと宣告され、翌年二月に亡くなった。余命数カ月といわれた時、津波で家族を亡くした女性をモデルにした絵本作りを決意。絵は幼少期から得意で、病床で原画を描いた。絵本は父の孝さん(実名)が遺志を引き継いで完成させ、刊行した。

トのパネルもある。ノー  
トの二一年七月四日の記述  
は、支援が行き届いてい  
ない地区の農具倉庫で泥  
かきした経験を伝えてい  
る。  
孝さんは「震災が徐々に  
忘れられつつあると感じ  
るが、防災教育は大切。皆さ  
んに見てもらい、何かを感  
じ取ってほしい」と話す。  
(神谷慶)

展示会場には、携帯電話

で撮影して両親にも送った  
石巻市内の壮絶な光景や、  
絵本の原画などが並ぶ。両  
親宛てのメール本文やノー